

4

特集 ここまで治る！ ラップ療法 のすべて

ラップ療法の基本手技

水原章浩

医療法人三和会 東鷲宮病院 循環器・血管外科 副院長, 褥瘡・創傷ケアセンター

Point

- ▶ ラップ療法の基本を理解し、適応、不適応を判断できる
- ▶ ラップ療法の考え方を応用し、褥瘡（創傷）治療において適切な薬剤を選択できる
- ▶ 創傷治療の3原則は「傷には消毒しない、水道水で洗浄する、乾かさずに被覆材で覆う」
- ▶ 滲出液の量と性状を常に観察し、適切な治療法を提供できる

はじめに

本章ではラップ療法の基本手技について症例写真を追いながら簡単に解説します。ラップ療法の適応

についても提言しますので、失敗のないラップ療法をめざして日々の診療にお役立てください。

ラップ療法の実際

準備するもの

最低限必要なものは、水道水を汲むための紙コップや洗浄ボトル、吸水目的のガーゼや紙おむつ、生理用ナプキン、そして食品用ラップと穴あきポリエチレン（流しの三角コーナーに使う水切り袋を開いたもの）です。

創からの滲出液が多いとスキントラブルの原因になります。現在では主に穴あきポリエチレンを用いることで、余分な滲出液は穴あきポリエチレンの小孔を介して排

除し、スキントラブルなどの合併症を防止しています。

ラップ療法の手順（図1）

前回貼られていた被覆材（穴あきポリエチレン）を剥がし、創はもちろん、おむつに付着している滲出液の量や性状をよく観察します。滲出液が膿性の場合や量がきわめて多い場合は感染巣の存在が疑われるので注意します。

次いで創周囲の皮膚を水道水で洗浄しますが、創

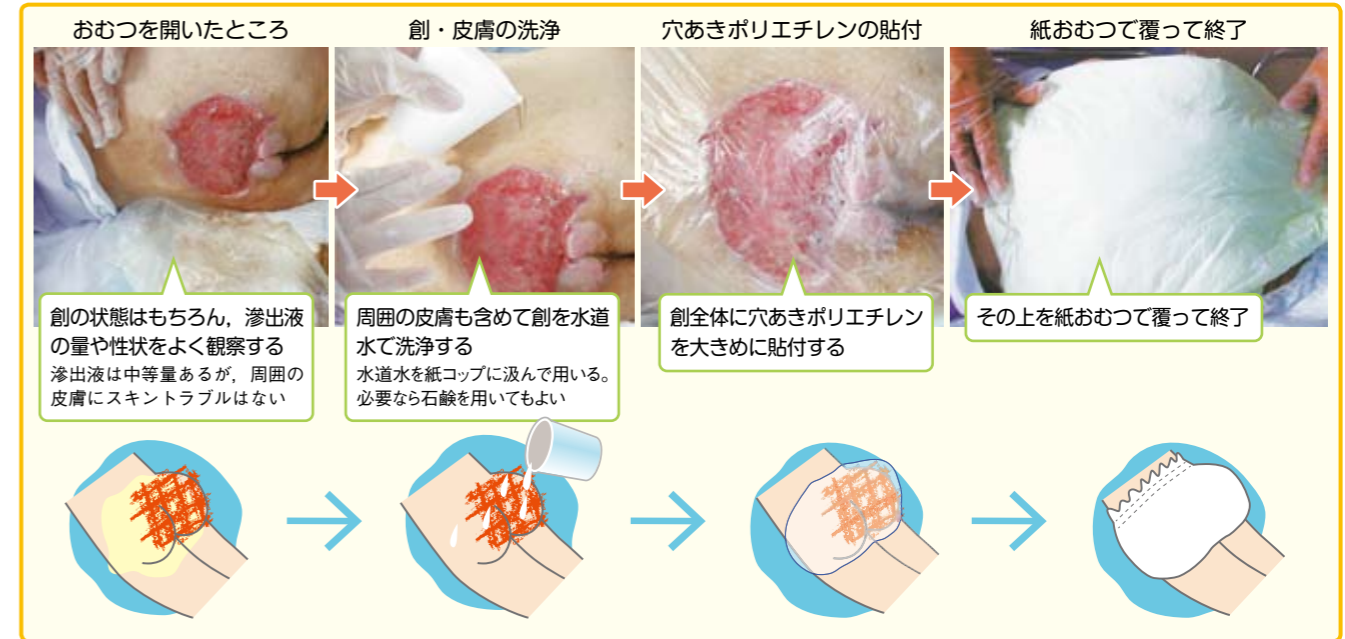


図1 ラップ療法の手順（仙骨部褥瘡）

が汚れていたら創も一緒によく洗います。創面に壊死組織があれば指を使ってできるだけ除去しましょう。過度に汚れている場合は石鹸を使いますが、その際は泡状石鹸がよいでしょう。そして石鹸が残らないように十分な水でよく洗い流します。

余分な水をおむつで拭き取ったあと、創全体に穴あきポリエチレンを大きめに貼付し、全体を紙おむつで覆って終了です。おむつで固定されるので基本的にテープ固定はしません。

その後の観察

当然ながら、創は最低でも1日1回は観察して洗浄処置をしましょう。おむつ交換のときでも創が汚れていたら穴あきポリエチレンを剥がして洗浄します。このように1日何度でも創洗浄し、被覆材（穴あきポリエチレン）も替えることができるのはラップ療法が廉価であるがゆえの大きな利点です。

ラップ療法に適した褥瘡

粘着性がなく処置が簡便であるというラップ療法の持つ利点が最大限発揮できるのは症例①（図2）

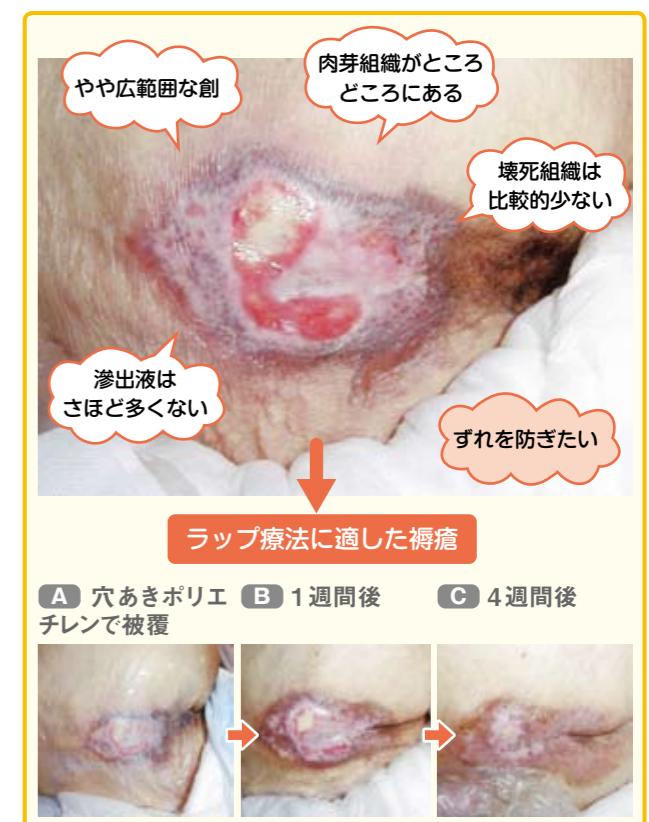


図2 症例①（ラップ療法に適した褥瘡）

A：乾燥防止、ずれ予防のために薄くワセリンを塗っておくことが多い1日1回の処置
B：上皮化は良好。滲出液はほとんどない
C：ほぼ治癒。その後も再発防止の目的でラップを使い続けることが多い